

【中学校・文化や芸術に関わる体験活動】

地域文化の継承活動（地域に学び，学びを地域にかえす営み）

愛媛県菊間町立菊間中学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：7学級(内特殊学級1学級)

生徒数：213人

教職員数：19人

体験活動の観点からみた学校環境

菊間町は、瀬戸内海に面する愛媛県のほぼ中央部に位置し、人口約8千人の自然に恵まれた町である。温暖寡雨な気象条件と丘陵の地形は温州みかんなどの柑橘類の生産に適し、地場産品の「菊間瓦」は、700年の伝統を有し、愛媛県伝統的特産品にも指定されている。全国的にも有名な「お供馬ともうまの走り込み」（県無形民俗文化財）のほか、継獅子や万歳などの伝統的地域文化に恵まれている。また、菊間太鼓など新しい文化活動も生まれてきている。

これまで、生徒はこれらの伝統的地域文化に接しつつも、自分が直接体験したり、地域文化について深く考え、地域を見直したりすることは多いとはいえなかった。継承者の少ない伝統芸能もあり、本活動に対する地域の期待は大きい。

連絡先

〒799-2303

愛媛県越智郡菊間町浜

2628番地1

電話：0898-54-2069

FAX：0898-54-2219

電子メール：kikutyu@dokidoki.ne.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

地域に住む有識者から、地域に根ざす伝統や地域の特色ある活動を教わることによって、地域文化に親しみをもち、大切に守っていかうとする態度を育てる。

体験活動を通して、他(人や文化、自然)とのかかわりについて学ぶとともに、そのかかわりの中で地域に生きている自分の存在を自覚させる。

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

1年生全員が4グループにわかれて活動

- ・中川万歳
- ・菊間太鼓
- ・瓦づくり
- ・お供馬の世話

活動場所（学校外の施設等の活用）

- ・学校の体育館
- ・町民会館
- ・かわら館
- ・地域の農家

「総合的な学習の時間」の活動として実施（ただし、平成13年度は「学校の創意の時間」を使った32時間）

2学期を中心に、金曜日の午後2時間などを適宜設定

体制等の工夫

各グループに1人ずつの担当教師

指導は地域からの外部講師(個人や団体)

活動の成果等

生徒の「学び」のとらえ方に広がりが出てきた。

郷土愛が育まれている。

学校と地域とのよい信頼関係が育まれてきている。

「総合的な学習の時間」の活動として、教科との関連付けを図ることにより、教科学習への効果も期待できる。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

「総合的な学習の時間」の主題及びねらい

全 学 年 共 通	主 題	他（人・文化・自然）とのかかわり合いを通して考える「自分と社会」
	ねらい	地域での体験活動や地域にかかわる調査研究活動を通して，自他（人や文化，自然）とのかかわりについて学ぶとともに，そのかかわりの中で地域に生きている自分の存在を自覚させる。

1 年	主 題	わが町，菊間のくらしを考える（地域文化の継承）
	ねらい	地域に住む有識者から，地域に根ざす伝統や地域の特色ある活動を教わることによって，地域文化に親しみをもち，大切に守っていこうとする態度を育てる。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「わが町，菊間のくらしを考える（地域文化の継承）」

イ 実施学年

第1学年

ウ 活動内容

1年生（65名）が分かれて活動する4グループ

中川万歳	中川地区に伝わる万歳の演目を身に付ける。	文化祭や福祉施設訪問で披露する。
菊間太鼓	町おこしとして始まった菊間太鼓の演目を身に付ける。	
瓦づくり	町の伝統工芸である鬼瓦づくりの簡単な技法を身に付け，オブジェ（来年の干支などの小作品）をつくり，文化祭で展示し，福祉施設訪問でプレゼントする。	
お供馬の世話	お供馬の世話をして，世話日記（菊間祭当日の走り込みがクライマックス）をつけ，公開する。	

エ 教育課程上の位置付け

本活動は，「総合的な学習の時間」の趣旨やねらい（学習指導要領）に沿った活動としており，1年生の活動として「総合的な学習の時間」の全体計画に位置付けている。

評価についても，「総合的な学習の時間」の評価として，観点を設定し行う。

活動の時間枠としては、平成13年度は「学校の創意の時間」を活用し、平成14年度以降は「総合的な学習の時間」に実施する。

オ 実施時期（期間，時間数，日数，泊数等）

7月のオリエンテーションで開始（夏季休業中の自主的な活動も考慮）し、2学期を中心に活動する。

原則として金曜日の午後2時間×14日

及び 1時間×4日＝32時間（泊無し）

カ 活動場所

中川万歳	学校の体育館（講師来校）	
菊間太鼓	町民会館の大ホール（太鼓同好会の練習場所）	学校から1.2km
瓦づくり	かわら館（瓦資料館）の実習室	学校から1.5km
お供馬の世話	お供馬を飼っている愛馬会の農家	学校から1.7km

キ 継続の状況等

本活動体験で学んだり、気付いたりしたことが、第3学年の「総合的な学習の時間」に行う『共に学び、共に生きる社会を考える（地域おこしプランニング）』に生かせることを想定している。

社会科の「身近な地域」の学習と関連付け、郷土理解の一助とする。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア オリエンテーション

7月に入って、オリエンテーションを実施し、長期間続く本活動の見通しをもたせるとともに意欲化を図った。

「総合的な学習の時間」について

本活動のねらいと年間のおおまかな活動計画について

菊間の郷土芸能、地域文化についてのビデオ視聴

部講師の紹介

イ 活動グループの編成

生徒の希望調査をとり、1年生65名を1グループ12～22名の4グループに編成した。なお、希望調査では、「なぜ、この活動を選んだのか」、「どんなことをしてみたいか」なども書かせ、生徒の意識をつかむとともに、これからの活動への期待感をもたせた。

(2) 活動の展開

ア 活動の時間の設定（活動計画）

活動の時間を原則として金曜日の午後にしておき、全体の活動計画を作成した後、学校の諸行事や外部講師の方の都合などに応じて、活動日を変更することにした。全体の活動計画では、4グループ共通の活動日のほかに、4グループがそろそろ必要のあるオリエンテーショ

ンや文化祭（本活動の発表会としての位置付け）、福祉施設訪問、活動のまとめ（反省とお礼）などをはっきりと示した。この全体計画をもとに、各グループ担当教師が外部講師の方とも相談して、担当グループの活動内容を細かく計画していった。

イ 指導者・協力者

各グループに担当教師が1人ずつつくとともに、指導は地域からの外部講師（個人や団体）の方をお願いした。

- ・中川地区の万歳伝承者
- ・町の太鼓同好会の鼓菊連
- ・鬼瓦づくりの専門家（鬼師）
- ・お供馬を飼っている愛馬会

ウ 生徒の活動の状況

（ア）中川万歳

扇子を動かす手のこなし方がポイントだ。男女のグループにわかれて、交互に教えてもらう。上手な生徒は、からだを使って踊るようになる。衣装もあでやかで、「松づくし」は、屏風絵を見るようだ。



（イ）菊間太鼓

初めのうちは太鼓に慣れず筋肉痛にもなった。手にまめをつくり練習を重ね、みんなのリズムが一つに合わさっていく。舞台では、はっぴにはちまき姿、足はがくがく。始まった。「どっこい、どっこい」ドーン。最後の一声、そして拍手、満足な笑顔



（ウ）瓦づくり

生徒は、思っていた以上に難しそうに感じていた。デザインは複雑でも簡単すぎてもだめで、彫り方も浅くしたり深くしたり。苦勞して作った瓦粘土細工が、焼き上がった。いぶし銀の輝きは美しい。



（エ）お供馬の世話

「サクラ」と「フジ」の2頭の世話をした。馬小屋の掃除や馬のブラッシング、えさ作り、鞍磨き、むち作りそして乗馬体験。菊間祭当日、世話をした馬が走るのを見て、今までのことを思い出す生徒たち。馬に愛着をもち、伝統の祭を再認識している。



（3）事後指導

社会科の「身近な地域」の学習で、地場産業である「菊間瓦」をテーマに、歴史や発達した自然的・社会的条件、販路、課題と将来像などについて、調べ学習（課題選択）を行った。

なお、瓦づくりの体験は、本活動だけでなく、1・2年生が毎年、瓦粘土細工（美術）を行っており、共通の学習基盤として成立している。

外部講師の方への生徒からのお礼については、活動体験をしての感想文を添えて、生徒が感謝の言葉を述べた。

3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制，関係施設等との連携

本活動は，1年生の「総合的な学習の時間」の活動なので，1年部教師が学年T・Tという形で運営に当たる。

活動開始時の講師依頼と活動終了時のお礼は校長が行う。

かわら館の実習室と町民会館の大ホールは，使用料を免除し無料にしている。

町の広報誌によく掲載され，地域にも活動の様子がよく伝えられている。

(2) その他

活動にかかわる経費（太鼓や万歳の衣装のクリーニング代，瓦粘土代，写真代，万歳の扇子の購入，謝金など）は全額を町費で負担しており，生徒からの徴収はない。

生徒が学校外の施設に行く際は，安全面に気をつけさせ自転車を使っている。

4 成果と課題

(1) 生徒や保護者，外部講師の声より

ア 生徒

私は、「発表なんか，なんでせないかんの」と思っていました。でも，一度発表すると太鼓をたたくのが今まで以上に楽しくなっていくのがわかりました。デイサービスセンターの発表では，ほとんどのお年寄りが泣いていました。私も泣きそうでした。私は太鼓を通じて，人と人との交流や感動のすばらしさがよくわかってとてもよかったです。

イ 保護者

文化祭で見ました。胸がドキドキする太鼓の響きでした。この「総合的な学習の時間」のねらいについてお話も聞きましたが，お供馬や万歳，菊間瓦など，地域のことについて勉強して，菊間の文化を守り伝える。すばらしいことだと思います。子どもたちのためにもなり，子どもたちのこの活動で地域が元気づけられる気がします。

ウ 外部講師

中川万歳を若い人が踊ってくれて本当にうれしく思います。とても上手になりましたね。教えたり，生徒のみなさんが発表会で踊るのを見たりするのは楽しいことでした。この歳になって，また一つ生きがいを見つけた感じがしております。こちらの方がお礼をいいたいくらいです。この前，万歳をした男の子が道であいさつしてくれました。ありがとう。

(2) 総括として

教師以外から指導を受けることで，生徒の「学び」のとらえ方に広がりが出てきている。

（学校だけが学びの場で，教師から学ぶだけではない。）

地域の芸能や工芸などを身に付けることにより，郷土愛が育まれている。

「開かれた学校づくり」の一端を担っており，学校は講師の方々に感謝しているが，講師の方々も教える喜びを感じている。後継者の少なくなった芸能もあり，この体験活動は地域の多くの方々に喜んでいただき，支援していただいている。学校と地域とのよい信頼関係が育まれてきている。

学校外での発表機会もあり，地域から学んだ成果を地域にかえす営みとなっている。

活動の最終段階には，「来年も（2年生になっても）この子らに続けさせたら，すばらしくなるのに。（来年度は生徒も替わり，またゼロからのスタートになる）」という外部講師の方の声もあったが，少数の上手な継承者を育成するのではなく，より多くの生徒に体験さ

せ、地域文化に親しませ、大切にさせるところにねらいがあることを話し、理解していただいた。外部講師の方と活動のねらいをはっきりさせておくことが大切である。

活動ノートをもたせ、活動の記録・反省（評価）をさせたが、評価の在り方が今後の課題である。案として、右のような評価の観点を考えている。

（この観点は、全学年共通で、他の観点は1年だけのものである。）

各グループの活動を調整し、総合的に運営していくプロデューサー的な担当者が必要である。

評価の観点
学習への主体的・創造的な態度 ・地域文化を大切にしようとする態度 ・地域社会の一員としての自覚 ・社会貢献・社会奉仕の精神 ・学習活動にかかわる技能・表現

5 今後の取組の方向

平成13年度は、32時間のほとんどが体験活動であったが、平成14年度は「総合的な学習の時間」の本格的実施に伴い、70時間を設定し、体験活動を充実させるとともに、教科との関連を図った活動や福祉にかかわる活動を付け加え、広がりをもたせたい。

- ・ 発表の機会を増やす（町文化祭、福祉施設訪問の回数） <福祉分野>
- ・ 独居老人との交流を図る（文化祭の招待状、年賀状など） <国語> <福祉分野>
- ・ 馬の絵を描き、作品展にも応募する <美術>
- ・ 伝統的工芸品月間作文コンクールに応募する <国語>
- ・ 「お供馬」を題材にしたサトウハチローの詩に曲をつけ合唱する <音楽> など

また、次年度は、中川万歳など身に付けた技能を先輩から後輩に教える機会を設け、学年間のよい関係をつくることも考えたい。いわば、学校文化の継承活動である。

【本事例活用に当たっての留意点】

本実践は、伝統的特産品である「菊間瓦」づくりや県の無形民俗文化財である「お供馬の走り込み」の馬の世話、さらには「中川万歳」や「菊間太鼓」といった地域文化に触れることを通して、文化に親しみ、文化を大切に守っていこうとする態度を育てるとともに、地域に生きている自分を自覚させようとして取り組まれているものである。第1学年だけでの取組ではあるが、総合的な学習の時間の趣旨・ねらいを踏まえた全校的な構想の中に位置付けられた活動として、生徒の多様な選択に基づく展開となっている。それぞれの活動が、福祉施設での発表やプレゼントとして生かされるなど、より奥行きのあるものとなるよう工夫されており、社会科や美術科などにおける学習活動との関連も考慮されていることは、大いに参考となるところである。

なお、道徳の時間との関連を図ることにより、体験活動で得られた生徒一人一人の貴重な体験が、自らの人間としての生き方により生かされるものとなるはずである。